

告白的女優論

■監督／吉田喜重■出演／浅丘ルリ子／岡田茉莉子／有馬稲子
■現代映画社制作／日本アート・シアター・ギルド配給
■イーストマンカラー



告白的女優論

■監督／吉田喜重■出演／浅丘ルリ子／岡田茉莉子／有馬稲子
■現代映画社制作／日本アート・シアター・ギルド配給
■イーストマンカラー



12月18日(土)ロードショウ
日 劇 文 化
201・2111

告白的女優論

■監督／吉田喜重■出演／浅丘ルリ子／岡田茉莉子／有馬稲子
■現代映画社制作／日本アート・シアター・ギルド配給
■イーストマンカラー

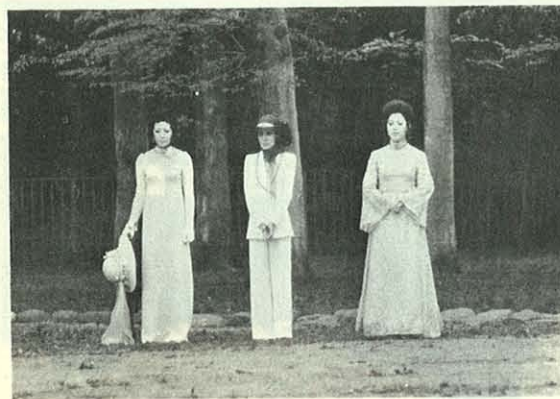


告白的女優論

かいせつ

●女優とは何か？この作品は、映画「告白的女優論」に出演することになった三人の女優の、撮影二日前の生活を追いながら三つの物語が同時進行する漸新なスタイルをとっています。

浅丘ルリ子が演じる女優、海堂あきはまだ撮影が残っていた前作品の、海辺のロケ地で未知らぬ青年から「あなたの過去のワイセツ事件について知りたい」と脅迫されます。これまで隠しつけてきた事実、それが露わにされたとき彼女は激しく動揺します。岡田茉莉子が演じる女優、一森笙子は急に声がなくなったから、映画の出演が出来ないといってマネージャーを困らせます。その原因は、彼女が昨夜見た夢にあるというのですが、それを追跡していくうちに、赤裸々に描きだされたのは、彼女自身の姿だったのです。有馬稲子が演じる女優、伊作万紀子は、かつて見捨てた雪国の故郷を、突然おとずれます。やがて彼女自身から語られるのは、誰にも知られたくないはずの、傷ましい心中事件だったのです。しかし、彼女の本当の狙いは——。月曜の朝、それは映画「告白的女優論」の撮影がはじまる日です。三人の女優は、その私生活になにともなかったように、華やかに顔を合わせ、映画がクランクインするところで、この作品はエンドマークになります。多分このあとには三女優の絢爛たる競演がはじまるのですが、それはこの映画とは関係ありません。女優が、ただ作られた役を演じるのではなく、「女優とは何か？」そのことが、この作品の最高のドラマなのです。これまでの映画づくりにつねに反抗し、映画をその根源から問いかけることをつづけてきた吉田喜重監督にとっては、「女優とは何か？」という主題は、一度は取りあげなくなる魅力ある素材だったのでしょう。吉田監督自身も、映画界に入った当初から、このテーマを暖めてきたと云っています。「撮影所で初めて、女優を見た日のことを覚えています。それがいかに労働であるか、素朴に驚いたものです。メーキャップひとつ、それは激しい労働だと思いました」これは吉田監督の言葉ですが、女優へのリアルな眼と、それを越えて映画という華麗な虚構のなかに、吉田喜重監督独自の映像世界が、展開されていきます。女優とは何か？この衝撃的であり、告白的であるテーマに、浅丘ルリ子、岡田茉莉子、有馬稲子の三大女優がみずからの女優キャリアと、またみずから築きあげてきた女優としてのイメージを賭け、人間に隠された様々な欲望、葛藤を表現しながら、より大きなみずからのテーマでもある「女優」に挑戦するのです。それは時には赤裸々な姿で、時には女優という美しい仮面のもとで——。



キャスト

海堂あき……………浅丘ルリ子
京子……………赤座美代子
能勢監督……………木村 功
夫人・桐子……………稲野 和子
あきを追う男……………原田 芳雄
クリーニング屋……………草野 大悟
牛乳配達夫……………児玉 泰次
高校教師……………川津 祐介
共演の俳優……………峰岸隆之介

一森笙子……………岡田茉莉子
リエ……………太地喜和子
マネージャー南川……………三国連太郎
波多医師……………菅 貴太郎
戸山博士……………早野 寿郎
亘理隼人……………中野 誠也

伊作万紀子……………有馬 稲子
デザイナー・ノブ……………久保まづか
万紀子の母……………月丘 夢路
父であるべき人……………細川 俊之
若い男優……………三木 敏彦
唐 沢……………伊藤 豪
インタビュー……………金内喜久夫



スタッフ

監督……………吉田 喜重
脚本……………吉田 喜重
……………山田 正弘
撮影……………長谷川元吉
美術……………朝倉 撰
音楽……………柳 慧
録音……………瀬川 徹夫
照明……………小林 哲也
編集……………渡辺 士郎
助監督……………岡村 精
衣裳デザイン……………森 英恵
……………松田 光弘
……………中林 洋子
ヘアデザイン……………石渡 潔
製作……………吉田 喜重
……………岡村 精
……………勝亦 純也
……………磯田 啓二

現代映画社製作／日本アート・シアター・ギルド配給
上映時間2時間3分／イーストマンカラー・スタンダード版

ものがたり

映画「告白的女優論」に出演の三女優・海堂あき、一森笙子、伊作万紀子は、クランクインが二日後に迫っていた土曜日。海堂あきは、まだ前作の最後の撮影のため伊豆でロケーションしていた。一森笙子は、同じ日、「告白的女優論」に出演しないと申しだし、マネージャーの南川を慌てさせた。その頃、伊作万紀子は、デザイナーのノブを連れ、S市空港に降り立っていた。伊豆のロケーションで演出にあたっていた能勢監督と海堂あきの間にはスキャンダルの噂があった。そんな海堂あきを見張るように、遠くからカメラを向けている男がいた。その日の撮影を終え、ホテルに帰ったあきを待っていたのは、能勢監督の夫人・桐子だった。口にごそ出さないが、せめるような桐子が、あきと能勢の間には噂されるような事実は何にもなかった。その夜、付人の京子と女二人で住む東京の自宅に帰ったあきは、深夜男が忍び込むのに気づいた。その男は京子の部屋へ消えた。いまにも京子の悲鳴が——とふるえるあきが見たものは、からみあう男と京子の姿だった。男は能勢だった。あきは初めて噂の原因を知った。「あれは私でなければいけないのだ！」翌朝、そつと出ていこうとする能勢と彼女は顔をあわせた。怒りにふるえる彼女が知ったのは京子の復讐——高校のクラスメートだったあきと京子は、夏休みの一、教師の下宿へ遊びに行き、そのとき京子はクロロホルムをかさがれ犯されたのだ。教師と京子のことを学校に密告したのはあきだった。それ以来、京子はあきにみじめな思いを味あわすチャンスを狙っていたという。あきは哄笑した。「眠っていた京子に何がわかるというの？」あのと教師に犯されたのは自分であり、教師は私を愛していた……遠い過去の話だった。そこに残されたものは事の真相でなく、女のすさまじいまでの戦いだった。京子は能勢と一緒に去った。そのあと昨日カメラで盗み撮りしていた男が現われた。過去の高校教師とのスキャンダルについて聞きたいという。この男とあきは寝た。一森笙子は、南川に突然映画に出たくない理由をこう説明した。「夢のなかで私の喉にプラスチックの球が引っかかって、声が出なくなりそうなの」長年彼女のマネージャーをしてきた南川には、それが笙子のいつもの気まぐれとしか思えなかった。彼女は、クリニックに戸山博士をたずねると睡眠療法を受け、南川宛の診断書を頼んだ。それでわかったことは、昨夜みた夢のなかで、彼女の別居中の夫・亘理隼人が、女優志願の付人リエと抱き合っていたという——南川は、それを女優一森笙子が若いリエに、女優としての嫉妬を抱いたからだと考えた。南川は、彼女をデビューした頃のプールサイドに誘った。「あ、あの球よ。私の喉につかえて、声を出せなかったのは」偶然プールに浮かんでいるプラスチックの球、笙子はそれを戸山博士に知らせ、昨夜みた夢の、本当に意味するものを捜しとめようとする。その夜、現われたのは戸山博士でなく、若い医者、波多であった。笙子は夢のなかに現われた夫の役に波多をふりあて、リエ、南川も交って夢の再現を行った。それは深夜にくりひろ

げられた、奇妙な夢のお芝居だった。夫とリエ、それに笙子を抱いた男たち——が次々に登場した。が、最後までマネージャーの南川だけは登場しなかった。一森笙子という女優を作りあげたのは自分だと自負する南川のなかで何にかが崩れた。日曜日の午後、笙子はあの若い医者、波多のアパートをたずねていた。あとを追う南川、それは笙子の方から仕組んだ芝居であったのかもしれない。自分の知らない秘密を持っていた笙子の姿をみたとき、南川は彼女がもはや遠い存在のように感じられた。「もう一度、チャンスを僕にくれ！」と叫ぶ南川をふりきって、車をスタートさせる笙子。彼女を追おうとした南川がトラックにひかれたのはその直後だった。S市は伊作万紀子の故郷だった。この町で女優になる以前の彼女は、心中事件を起していた。相手は母の再婚者である若い父親、このとき男を死なせ、自分だけが生き残るという過去を持っていた。残雪の高原に立った彼女は、東京から同行した女友達のノブに総てを語り、本当の自分を知ってもらったうえで、恋人の唐沢をノブに譲る決心をしたという。その夕方の飛行機で万紀子はS市を立ち、帰京したが、すでに母は彼女が内緒で旅行したことを知っていた。S市から彼女が帰郷しているという電話があったという。それは名前も告げず、ただ男の声だった——その深夜、S市から再度母のところへ電話がかかってきた。万紀子は母から奪うようにして受話機をとるが、相手は何にも喋らず、向うから切れた。万紀子にはわかった！それが死んだはずの父からのものだ——混乱する万紀子、父は生きていたのだ。母は「その嘘のおかげであなたは今まで生きてこられたのです。女優としての道が歩めたのです」といった。翌朝、ノブがたずねてきた。ノブは万紀子にかかわる過去のいくつかの自殺事件——若いスターとの心中未遂、亘理夫人をめぐって一森笙子と争い、その失恋による自殺未遂——をあげ、最後に唐沢の言葉を伝えた。「自殺狂であることを承知で結婚する。それすらも伊作万紀子の魅力だ」ノブはみずからの敗北を認めて去っていく。そのあとには彼女の残酷なプレゼント、裁断バサミが残されていた。午後から唐沢自身がたずねてきたが、万紀子は会おうとしなかった。母は独断で、唐沢を彼女の部屋へ案内した。が、そこには彼女の姿はなかった。浴室にとじこまった万紀子は、いま裁断バサミで自からの手首を切ろうとしていた。そのとき、ドア越しに唐沢の声が聞える。「君が、もし女優であるならば、死ぬことは出来ない。死ぬことすら、君にとっては演技なのだから」「お父さん——」彼女の手から裁断バサミがすべり落ちた。月曜日の朝、三人の女優はロケ現場に美しい粧いをみせて登場した。そして「あなたにとって女優とは？」とインタビューされて、彼女たちはその飾られた仮面の裏に総てを隠し、答えた。いま映画「告白的女優論」の撮影が行われようとしている。三人の女優はカメラに向って歩きはじめた。あくまでも華麗に——。



ちっちゃなかわいい
チョコ・カップの中に
やさしくヨーグルトクリーム
が入った「これはめずらしい」
チョコ。淡くとろける初めての
オイシサです



ロッテヨーベル ナッツヌガー レモンクリーム 100円
まろやかなおいしさ
ロッテ
チョコレート